

事務事業名 通学合宿 みんなで学ぶ『子ども村』

区分	No	名称
章	2	自然とともに暮らすまち
節	2	自然を生かした潤いのあるまちづくり
施策	1	人と自然が共生する潤いと安らぎのある環境の創出
小分類	1	自然環境運動の拠点づくりと人づくり
主要な施策	1	体験的自然環境学習の場の充実
事務事業番号	003	事業開始年度 平成 21 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	教育部	グループ名	社会教育グループ
-----	-----	-------	----------

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	親元を離れて子ども達の手で共同生活をしながら学校に通うことにより、子ども達の自主性・協調性や適応能力を伸ばし「生きる力」を身に付けさせるとともに、学年間交流や学校間交流を推進する。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成23年度の実績を具体的に記入してください)
	<p>ネイチャーセンター「ふおれすと鉱山」で支援ボランティアと生活をともにし、家事をはじめ自然体験や学習活動を楽しみながら、学校へ通う「通学合宿」を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の小学校を2地区に分け、前期(5~6月)後期(9~11月)1回につき4泊5日の日程で4回実施する。(学校とネイチャーセンター間の送迎は、バスを借上げる) モモンガくらぶによるプログラムや婦人団体による生活支援、大学生ボランティアの派遣による生活・学習支援等の協力を受けて事業を運営する。 <p>H23年度参加者 延べ 106名 H23年度協力者 延べ 110名</p>
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き地域ボランティア及び学生ボランティアの協力を得て事業を展開する。 学生ボランティアの派遣について、道教委と連携を深めて効果的な事業実施に努める。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)

事業費(財源内訳)の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H22年度 決算	H23年度 決算	H24年度 当初予算	H25年度 見込	H26年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称 生涯学習振興奨励費補助金/地域づくり総合交付金	千円	500	500			
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円	946	560	1,060	1,060	1,060
事業費 合計			1,446	1,060	1,060	1,060	1,060

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	22年度 実績	23年度 実績	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	参加者数(延べ)	人	目標値	100	100	100	100	100
			実績値	75	106			
			目標値					
			実績値					

現況		《Check》
現状の状態、問題点、課題等《事業前》	具体的な対策、解決の方向性《事業後》	
<ul style="list-style-type: none"> 一回あたりの定員を大幅に超えた申込についてどのように対応するか 事業実施時期と学生の休業時期が合わないため、どのように学生ボランティアを確保するか 	<ul style="list-style-type: none"> ネイチャーセンターが比較的空いている時期であったことと、支援ボランティア増員の協力を得られたことから希望者全員を受け入れることができた。今後についても可能な限り受入ができるよう調整する。 (当初より受入上限超は抽選の予定) 当初は道教委の学生ボランティア派遣制度のみを想定していたが、同制度登録者以外にも個別に協者を発掘することができた。今後はこれまでの協力者と派遣制度の両面からボランティアを確保していく。 	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について		
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見 現状においても社会教育団体や道教委と連携して事業を実施している。事業の効果という面で、将来的にはNPOや団体等、地域の力による事業実施も視野に検討・シミュレーションを重ねていきたい。
	民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である	
	国、道、他団体等との連携や広域化が可能である	
	国、道、民間等の事業と重複・類似している	
2. 事務事業の必要性について		
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見 事業後のアンケート調査では、参加児童・保護者ともに非常に満足度が高い。事業継続の要望も多く、参加者の約4割がリピーターである。ボランティアとして参画して頂いた学生からもリピート要望がある。
	市民アンケートの結果から必要性が高い	
	社会情勢、地域事情等から必要性が高い	
	市民の大部分が関連することから必要性が高い	
3. 事務事業の効率性について		
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見 安全管理上の経費や通学バス借上料等、必ずしも低予算とは言いがたいが、参加児童の成長やボランティアのスキルアップなど、コスト以上の成果がある。また、事業成果の向上を目指すことが将来的に効率性に繋がる可能性がある。
	市で実施するほうが民間委託より効率性が高い	
	多額の経費や労力を要するがやむを得ない	
	将来的に効率性を向上できる	
4. 事務事業の成果について		
目的を達成するための成果はあがっていますか？	成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見 初年度から徐々に参加者が増加している。また、上記アンケートにより保護者が子どもの成長を感じている声が寄せられており、数字に表しにくい部分での成果も着実に上がっている。
	市民、団体等の声から成果を感じられる	
	目に見える形で成果があがっている	
	成果の把握は困難である	

担当グループによる評価 《Check》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	共同生活をしながら通学することにより、子どもたちの自主性・協調性や適応能力を養い、「生きる力」を身に付けさせることができる。また、合宿生活により学習習慣の定着を図ることで学力向上に繋がる可能性があるため、新たな学習ツールを活用する等、事業の充実を図りながら継続したい。
----	----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

行政評価会議による評価 《Check》

維持	備考
----	----